



第127回テーマ 摩耶山再生の会の活動



掬星台リュックサックマーケット

- 阪神大震災後、灘区で「まちあそび」
- 摩耶ケーブル・ロープウェイ存続を提案
- 「摩耶山再生の会」の実践と今後

実施日：平成28年8月20日（土）
午前10時～15時00分
場 所：六甲山自然保護センター、
記念碑台・散歩道



講師：慈 憲一さんプロフィール
1966年（昭41）神戸市灘区出身・在住。
東京在住時に阪神・淡路大震災で実家が被災、翌年神戸に戻る。灘愛をテーマにしたメールマガジンやWEBサイトなどでマニアックな灘情報を発信しつつ、数々のイベントを開催。2013年摩耶山でレンタルショップ monte702 開店。灘百選の会事務局長、摩耶山再生の会事務局長など灘の肩書き多数。

午前中は散歩道のササ刈り

記念碑台は晴れで、午前中の活動に18名が参加しました。イベント清掃びかびか隊の14名は散歩道とまちっ子の森でササ刈りの作業をしました。4名は散歩道をシュラインロードを経て周回しました。
午後の講演には26名が出席しました。

慈さんは震災後から一貫して灘区の活動家

慈さんは、「灘区民にとつての山は摩耶山で、六甲山はレジャーの山みただ。長峰とか摩耶山は日常的に歩いて上がって、裏山として親しんでいた。摩耶山は信仰の山で、中腹に天上寺があって、よくここに連れて行かれた。



灘区から中央が摩耶、隣は長峰・六甲

実は摩耶山は嫌いやった。お寺しか無くて、「寺の人間が何で寺に行かないのか」と思っていたと、摩耶山に関わる原風景を紹介された。阪神淡路大震災の翌年、神戸に戻ってきて、灘区の地域復興活動に20年関わっておられるコーディネーターで、地域活動のコンサルタントとしては主流でない、万人受けすることができないと自認されています。摩耶ビューライン復活の渦中で、「ふだん使いの山」にこだわって地域ぐるみの活動を根づかせている存在感は大きいです。

まやビューライン復活で地域連携の盛り上がり

講演の冒頭で、阪神大震災後の地域への関わりを紹介された。西灘の味泥復興委員会で初めて関わり、灘区民まちづくり委員会の企画委員として、「なだ・なだ」の制作をはじめ、地域全体を見渡した活動を発展しています。そして、摩耶ケーブル・ロープウェイを
残す方向で取り組み、摩耶山再生の活動につながっています。
震災後復活した「まやビューライン」の乗客を増やすため



摩耶ケーブル・ロープウェイ

にいろいろなイベントを着想して実践しますが、乗客数は低下し存続の危機を迎えます。2006年に「リュックサックマーケット」のイベントを導入して活路を見出していきます。

しかし、2010年に、「まやビューラインを来年廃止」と報道されて愕然とし、「摩耶山再生会議」を設立し、神戸市に存続の「提案書」を提出します。そして「将来構想」の具体化を1年かけて練り、再度「提案書」を提出します。1ヶ月後に神戸市長が存続の意向を表明しました。市民活動がオーソライズされる転機となり、実行的な団体「摩耶山再生の会」が設立されます。

そして、イベントをどんどん拡充しつつ、「坂バス」でアクセスも改善するなど、地域を巻き込み、震災後の復興プランも活かすなど、多彩な活動が進展します。これらの経緯を失敗談も交えながら、にこやかに話されました。

卓越した「手作りの山あそび」？に感服

摩耶山は盛り上がっていると聞いていました。摩耶山のアクセスが廃止されるという致命的な課題に対して、本腰を入れ本格的な取り組みをされている実態を知りました。ピンチをチャンスに変える、地域挙げての活動を創出したのです。立役者の慈さんと仲間、地域の皆さんにエールを贈ります。



摩耶山再生 将来構想

「将来構想」

参加の感想 木下さん

びかびか隊14名で参加させて頂きました。お話の中で今ではなくなっている掬星台の山上遊園地や摩耶観光ホテル等賑わっていた頃があった事も知り、寂しくなった摩耶山を再生させる慈さん達の大変な努力に感心しました。イベントの企画等の内容もユニークで、沢山のアイデアを持たれ、それを将来構想やまや層等で実行されています。今後ともより一層、摩耶山そして六甲山が市民のいこいの場所となりますようにご活躍をお祈りいたします。



主催：六甲山を活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：神戸県民センター、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】順不同
大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、
コープこうべ環境基金、セブン-イレブン記念財団